

県立広島大学教員活動情報

所属学部等	生命環境学部	生命科学科	専攻	生命システム科学専攻
職氏名	教授 黒木英二			
専門分野	食品マーケティング	フードビジネス学		

1. 教育活動 (平成19年度)

(1)担当科目(学部)	食品システム科学演習 バイオフードシステム論	卒業論文演習 1	卒業論文演習 (管理学科4年生)	食品マーケティング論
(大学院)	バイオビジネス学	バイオビジネス学		
(2)教育関係 特記事項	教育GPが20年度に採択されたが、それに先立って生命科学分野におけるフィールド科学の重要性に着目して、食品システム科学演習において、地域社会や企業との交流や現地研修を通じて課題提出や、プレゼンを実施してきたところであり、20年度は特に印刷物にして演習成果を公表する予定である。その他、食品マーケティング論等の講義においても地元特産物開発のような地元に関した話題を教材としてとりあげ、フィールドに根ざした科学的分析姿勢の醸成に努めている。			

2. 研究活動 (平成17～19年度)

(1)論文等	学校給食における食材供給のシステム成果の検証, 広島県立大学紀要第17巻第1号, pp. 69-78.	平成17年8月
	中山間地域におけるコミュニティ・ビジネスクラスター形成の意義と課題, 広島県立大学紀要第17巻第2号, pp. 121-128.	平成18年2月
	完熟トマト生産者の組織経営によるビジネス展開の可能性, 広島県立大学紀要第18巻第1号, pp. 71-81. 平成18年8月	
	コミュニティ・ビジネスの現状と課題, 広島県立大学紀要第18巻第2号, pp. 17-24 . 平成19年2月	
	地産地消拡大に伴う生産者の都市部出荷意向と農産物直売戦略, 農村計画学会誌26巻論文特集号, pp. 335-340.	平成19年12月
(2)著書	「中山間地域におけるコミュニティ・ビジネスクラスター形成に果たす大学の役割」, 坪本毅美編著『中山間地域の底力』農林統計協会(執筆者, 坪本毅美, 藤田泉, 四方康行, 堀田学, 黒木英二, 前川俊清, 村田和賀代, 宮本誠, 細川隆雄) ISBN 4-541-03329-1 C3061	平成18年3月
	「中山間地域における高齢者の出荷拡大意向の戦略的意義」, 四方康行編著『中山間地域の発展戦略』農林統計協会(執筆者, 四方康行, 谷口憲治, 笹木昭, 坪本毅美, 今井辰也, 村田和賀代, 黒木英二, 堀田学, 藤田泉, 佐藤寿樹, 宮本誠, 竹常明仁), ISBN 978-4-541-03551-6 C3061	平成20年3月
(3)学会発表等	黒木英二(単独) 学校給食における食材供給システムの成果の検証 日本フードシステム学会 千葉大学(松戸市)	平成17年6月
	黒木英二(単独) 中山間地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性 日本フードシステム学会 東京大学(東京)	平成18年6月
	黒木英二, 堀田学 地産地消拡大に伴う農産物直売所戦略の方向性 日本フードシステム学会 宮城大学(仙台市)	平成19年6月
(4)工業所有権等	該当なし	
(5)外部資金採択状況	科学研究費補助金(代表) _____ 件 科学研究費補助金(分担) _____ 件 その他外部資金 1 件	
(6)研究関係 特記事項		

3. 地域貢献活動 (平成19年度)

(1)審議会等委員	庄原市起業支援補助金審査会 庄原市西城地域キャリア教育推進委員会	H19.8～H21.3 H19.4～H20.3
(2)公開講座等		
(3)地域貢献 特記事項	地域バイオ資源を活用した商品開発を通じて地域活性化の貢献に努めている。とくに条件の不利な遠隔地にある中山間地域に適したビジネスを展開するためには、地元の自治体、生産者、企業等との連携及びそのコーディネート機能を大学が十分に担うことが重要であるとの立場に立っている。なかでも庄原市総領町五領自治振興区におけるコミュニティ・ビジネス商品である「菜種の雫」は卒論や重点研究等を通じて、開発当初から集落住民との共同研究によりビジネス拡大を目指している。その他平成19年度は実現できなかったが、学内の教育研究成果の地域還元的重要性に鑑み、公開講座、公開授業、公開発表会等には積極的に関わってきたところである。	

4. 大学運営活動 (平成19年度)

(1)学内委員等	オープンキャンパス実行委員会 将来構想委員会	教育研究施設検討委員会
(2)大学運営 特記事項		

以上は、主要な活動について掲載しています。